

各都道府県サッカー協会の重点施策にスポットを当て、レポートする連載企画。今回は、広島県サッカー協会の取り組みを紹介する。

クローズアップ FA 連載

御三家の復活、ユース年代の育成にかける

■カテゴリ別登録数 (2015年度)

カテゴリ	第1種	第2種	第3種	第4種	女子	シニア	フットサル
チーム数	136	103	103	223	34	12	51
選手数(人)	3,792	4,197	3,939	7,039	715	622	748
カテゴリ	サッカー 監督(※)	フットサル 監督	サッカー 審判員	フットサル 審判員	サッカー審判 インストラクター	フットサル審判 インストラクター	
人数(人)	219	51	7,287	327	76	13	
カテゴリ	サッカー 指導者	キッズ リーダー	フットサル 指導者	※指導者登録の該当数は含まない			
人数(人)	1,588	4	22				

【協会概要】

正式名称 公益財団法人 広島県サッカー協会
所在地 〒730-0015 広島市中区橋本町3-21 コーポ芦屋 2F
協会設立 1924年
財団法人認可 1990年
公益財団法人認可 2012年4月

■役員

会長 小城 得達
副会長 田中 保昭
副会長 片山 晴之
副会長 藤口 光紀
副会長 白井 孝司
副会長 猫島 栄治
副会長 古田 篤良
専務理事 宗政 潤一郎
事務局長

広島県は日本にサッカーが広まった1900年代前半から、静岡県、埼玉県と並んでサッカー強豪県として名を馳せてきた。1924年度の第4回天皇杯を制した広島一中鯉城クラブ(※1)、戦後は東洋工業(サンフレッチエ広島の前身)が天皇杯や、後に発足する日本サッカーリーグ(JSL)を制覇、サンフレッチエ広島もJ1王者に3度輝くなど、古くから日本サッカー界をけん引し、日本代表チームに数多の選手たちを送り出してきた。2種(高校生)年代も修道高校や広島大附属高校などが毎年のように全国大会の上位進出を果たすなど、広島サッカーの歴史は輝かしい功績に彩られている。

元日本代表としてオリンピックに2度出場した経歴を持つ広島県サッカー協会(HiFA)の小城得達会長は、自身の経験を踏まえ、「私の時代から県内の指導者の皆さんが、自分の学校などの枠に固執することなく、広島県で選手を育てよう」という高い意識を持っておられました。私たち選手も広島県の代表として全国大会を戦うという意識がありました」と、広島サッカーの強さの理由を語る。森重真人(FC東京)、楳野智章(浦和)ら、これまでも多く

の広島県出身選手がサムライブルー(日本代表)に招集されてきたが、小城会長ら県協会の幹部は「以前のような強さが見られない」と危機感を募らせている。広島サッカーが以前のような輝きを取り戻すには、県サッカー界全体でユース年代の育成に力を入れなくてはならない。「特に3種(中学生)年代にアプローチしたい。ここが活性化すれば、2種につながる、やがてトップにも多くの人材を送り込める。4種(小学生)年代にも良い影響を与え、広島サッカー全体のレベルアップになる」と小城会長は言う。広島県協会では、選手の育成・強化をより強力に推進させるため、3種年代の充実を中核に据えて、指導者のレベルアップ、トレーニング施設の充実などの環境整備を強力に推進させていく方針だ。

広島から世界で活躍する選手を育てる

今年9月、広島県協会は「2016 HiFA ユース宣言」

(1)広島一中(広島第一中学校)は、現在の広島県立広島国泰寺高校

を制定した。この宣言の取りまとめで中心的役割を担ったのが、古田篤良専務理事である。古田専務理事は「4種から2種まで、県内の指導者が共有すべき方針が理解されておらず、(方向性が)ぶれていることがある」と気づき、それが低迷の一因ではないかと考えた。選手育成に関わる県内全ての指導者に目指すべき方向性を再確認して意思統一を図るとともに、それを明文化して県全体で共有することを決め、2015年にユース宣言の策定に着手した。

各年代の強化育成担当者らと月1回の会合を開催し、一年にわたって議論を重ねた。その中で、指導者によっては年代別に取り組むテーマが統一されていなかったり、地区ごとにテ



SAMURAI BLUEの中心メンバーとして守備を支える森重真人(中央)ら広島県出身の多くの選手がトップレベルで活躍している

有を図っていく計画である。

新スタジアム構想も推進

マの解釈などが異なっている現状が明らかになった。古田専務理事や技術委員会のスタッフがその違いを一つ一つ修正し、周囲のコンセンサスを得て宣言をまとめ上げた(左下表参照)。ユース宣言では、キッズ年代から2種年代まで、各年代で取り組むべきテーマを明確に設定している(詳細は県協会ホームページなどを参照)。また、15年3月に文部科学省が作成した「グッドコーチングに向けた7つの提言」の定着にも力を入れている。

古田専務理事は、「ユース宣言によって県内の指導者のベクトルを合わせる事ができる。指導者間の連携は強まり、指導者の意識も変化して、質が上がってくるはず」と効果に期待を寄せる。これからは広島県協会が中心となり、種別ごとの育成部会などを通じて県下の全チーム・指導者や関係者と共



宗政潤一郎事務局長以下スタッフ2名で事務局を支えている

国際大会やJリーグなどの試合が開催できる大規模スタジアムの新設も、行政や地域の経済界、サンフレッチエ広島などと協議を進めており、用地選定をはじめ実現に向けて構想を練り上げている。

広島県協会の各種事業を拡大させ、その質を上げていくためには、財源の確保も重要課題と位置付け

ている。県内サッカーの実情を鑑み、普及と育成の両面にバランスよく事業実施の優先順位をつける。そして、独自の収入を確保するためのマーケティング活動もJFAからの助言を受けながら実施していく準備に入っている。

フットボールカンファレンス開催

来年1月には、「JFAフットボールカンファレンス」が広島で開催される。1998年にカンファレンスが始まって以降、広島県協会は同カンファレンスの招致に取り組んできた。今回、「悲願」のカンファレンス開催となる。

宗政潤一郎事務局長は、「地理的な要因もあり、広島の指導者のカンファレンス参加者数は毎回10〜20人と少なく、歯がゆい思いを

してきた。初の広島開催となるので、県内の多くの指導者が参加してくれるはず」と期待を寄せている。事務局でも世界各国、日本各地から集まる指導者たちの受け入れ、歓迎イベントの開催など準備を進めている。

9月22日には、JFAフットボールデーの一環として「2016広島サッカーフェスティバル」を開催した。小学生とシニアの選手がサッカー交流を行い、別会場ではアンプティサッカーとブラインドサッカーのイベントも開催、計163人が参加し、420人のサッカーファミリーも同イベントに足を運んだ。「HiFA2009年宣言」(左下表)でうたっている「2050年までにサッカーファミリーを24万人に」に向けて、普及活

- 2016HiFA ユース宣言「広島から世界へ」(抜粋)
- ユース年代のサッカー経験を基に、よりレベルの高いゲームにチャレンジできる選手になろう。生涯を通じてサッカーにかかわり、サッカーのすばらしさを伝えられる人材になろう。
- 【ユース育成指導目標】
- U10(KIDS):「からだづくり・動きづくり(コーディネーション)」
 - ・スムーズな動き
 - ・ボールフィーリング
 - ・ゲーム感覚を身につける
 - ※サッカー(スポーツ)との良い出会いを演出するのは子どもたちに関わるすべての大人の仕事
 - U12:「ボールを意のままに」クリエイティブでたくましい選手の育成
 - ①さまざまな局面を個人の技術と判断で打開できるたくましさ
 - ②ゲーム感覚(状況を感じる力)
 - ③ボール・ゴールを積極的に奪いに行く姿勢
 - U15:「ハイプレッシャー下でのスキルの発揮、個人戦術の確立」
 - ①観て判断することの習慣化
 - ②ハードワークを日常に~連続してプレーできる選手の育成
 - ③切り替えの速さ
 - ④サッカー理解
 - U18:「大人のサッカー選手として」
 - ①さまざまな戦術や状況に対応できる選手の育成
 - ②プレーの質を追求(プレーの精度、選択肢の多さ、連携、駆け引きなど)
 - ③「しつけ」の完成(場面に応じたプレーの選択、やっつけはしないプレーをしない)
 - ④自立した選手・自律できる選手の育成 オンもオフも

HiFA2009年宣言

■HiFAの理念
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、広島県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

■HiFAのビジョン
地区協会と共に広島県のサッカーの普及に努め、他の競技団体と連携してスポーツをより身近にすることで、広島県民が幸せになれる環境を作り上げる。
地区協会と共に広島県のサッカーの強化に努め、広島県出身プレーヤーが国内外で活躍することで、広島県民に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、スポーツを通じて広島県はもとより、国内さらには世界の人々と友好を深め、広く社会に貢献する。



広島県サッカー協会の役員(前列右から2人目が小城会長)と事務局スタッフ(後列)